

# センターだより

平成28年2月25日

NO.55

東濃西部少年センター TEL 23-3455 FAX 26-8813

## 内 容

時代に即した活動を	p1
27年度の振り返り	p2~3
3人の班長さんから	p4~6

## 2月です 光に 春動く



多治見駅西に咲く梅

### センター職員

所 長	宮嶋 昌治
指導主任	坂井 正昭
事務担当	柴田 弥生

## 時代に即した活動を

雑誌「青少年問題」第659号に次のような文が載っていました。

「少年の非行化を早期に発見、防止、保護するための警察、教育、民生関係者の『連合軍』であり、「非行少年取扱いの第一次的な窓口」が「少年センター」なのである。こうした構想は、近年の多機関連携構想に通じるものであり、地域連携構想に類似するものである。つまり、少年センターは、こうした構想の元祖的存在であったと言える。ただ、残念ながら、少年センターの時代推移を見てみると、必ずしも『連合軍』となっているかは、疑問なところである。設立当初に描いた理想通りには、うまくことが運ばなかったようである。」

このような、多機関との合同活動のあいまいさや法的根拠のなさによる指導の限界の悩みなど、「ことがうまく運ばない」ことは多々あるものです。このような問題を抱えながらも、東濃西部の各地区では、地域に密着し、工夫を凝らした活動をして頂いております。本当にありがとうございます。今後、東濃西部少年センターは、多機関連携、地域連携を充実させると共に、今までと変わらない活動、時代に即した新たな活動等を企画・推進していきます。

# 平成27年度を振り返って

東濃西部少年センター  
所長 宮嶋 昌治

## 【はじめに】

少年指導員さんの任期は、5月～4月となっています。学校などが、4月から3月を一区切りとしているのに比べて、任期が一ヶ月ずれています。このことは、3月から4月にかけての「声かけ活動」がしっかりできるというメリットのある反面、学校、会社などの人事異動と重なり、「声かけ活動」に支障をきたすというデメリットもあります。

年度がわりのこの時期の事を、センターだより 52、平成27年2月15日号で、多治見地区 副地区長の村井薫さんが、次のように書いてみえます。

「学校を卒業すると若者の多くは、大人の仲間入りをした気分になり、気持ちも大きくなるように思います。そのせいか、春先、駅付近にいろいろな人が集まり、タバコの吸い殻、座り込み等をみかけるようになります。」

このように、3・4月は、若者にとって様々な行事も多く、街中で多くの若者と会える良い時期であると共に不良行為に対する指導の必要となる時期でもあります。指導員の皆様方には、年度末の何かと忙しい時期になりますが、ぜひ時間等の都合をつけていただいて、「声かけ活動」を実施して頂き、メリット部分を生かして頂きますよう、何卒よろしくお願いたします。

## 【4月～12月の振り返り】

### 「声かけ活動について」

71.8%

この71.8%という数字は、昨年度、平成(26年度)の三地区少年指導員さん方の「声かけ活動」の参加率です。今年度は、4月～12月までの参加率が、69.4%になっています。4月末までに昨年度の参加率に追いつき、追い越せればと思っています。

本年度は、200名ジャストの少年指導員さんに活動をしていただきました。

班の数は、土岐地区で曾木小学校と鶴里小学校が統合して濃南小学校になったのを受けて一つ減って33班になりました。

それぞれの指導員さん方が、責任を持って活動して頂いたことに、心から感謝しております。どうしても都合がつかず、声かけ活動に欠席された方もみえますが、各班の活動は、ほとんど中止されることなく計画通り実施していただきました。本当にありがとうございました。

### 「行為別の指導状況について」

今年度の行為別指導状況は、自転車関連や迷惑行為は、ほぼ昨年度と同数でした。喫煙の指導人数は、若干減少していますが、水面下での未成年者の喫煙は、多いととらえています。喫煙行為は、非行への入口にあたる行為と受け止めており、薬物乱用にも繋がっていくことも考えられ、指導の重要なポイントと考えています。

なお、今後、若者の薬物乱用について、細心の注意をはらっていくことが必要だと考えています。(公財)全国防犯協会連合会のパンフレットに、「いま最も注意すべき危険な薬物5種類」が載っていました。次の5種類です。

- ・危険ドラッグ 俗称 お香・ハーブ・アロマ・バスソルト
- ・大麻 俗称 マリファナ
- ・向精神薬 俗称 トリアゾラム
- ・MDMA・MDA 俗称 エクスタシー・ラブドラッグ
- ・覚醒剤 俗称 S(エス)・スピード

この中で若者の乱用者が、圧倒的に多い薬物は大麻だそうです。

大麻の<作用>は、感覚が敏感になり、変調をきたす。現在・過去・未来の観念が混乱し、感情が不安定に。毎日、ゴロゴロしてやる気のない無動機症候群に。<法律・処罰>は、所持・譲り受けて5年以下の懲役。



今後も、子どもたちや若者たちの動向に注意しながら、「声かけ活動」を実施し、子ども・若者たちとの人間関係を深めることを大切にしながら、非行行為の防止をしていきたいと考えています。

#### 【学職別の指導状況について】

昨年度と比べ、高校生が男女とも増加しました。それは、自転車の無灯火やたむろに加え、夏の時期に花火や川遊びで指導した結果でした。小学生は自転車関連と路上でのサッカー等の危険な遊び、中学生はゲームコーナーでの指導が主なものでした。

今年度は、警察による「自転車14項目の悪質運転危険行為」についての取り締まりが強化されました。それを受けて、指導員さん方も、自転車の指導に力点をおかれしました。その結果、自転車関連の指導件数が、増えました。少年センターでも、自転車の安全運転等について啓発チラシを作成し、駅前配布しています。3市の各高等学校にお願いしている高校生による啓発活動(MSリーダーズ活動やのびのびプロジェクト活動と連携した活動)でも配布しています。命に係わる悲しい自転車事故が無いように願っています。

#### 【相談活動の状況】

昨年度と比べ相談件数は減少しています。電話相談は増加しましたが、メール相談が大きく減少しました。全体を通しての相談内容は、学業や交友関係に関する相談でした。

#### 【おわりに】

若者の非行行為を未然に防止するための「声かけ活動」は、少年指導員様一人ひとりの地道な活動により支えられています。ありがとうございます。「声かけ活動」を含めた圏内の若者支援活動が、大きな非行行為の発生を防いでいるともいえます。このような良い流れは、平成28年度にしっかりと引き継いでいって頂けたらと思います。

## 3名の班長さんから

# 地域全体で子供の見守り

多治見地区10班根本班長  
渡辺 雅司

根本地区10班では、根本交流センターを起点に毎月第3水曜日の18時から、8名の指導員で根本駅周辺の巡回をしています。

根本交流センターでは、活動を終えて帰宅する児童に声をかけています。冬は18時を過ぎるとすっかり暗くなっていますが、大半の児童は保護者がお迎えに来てくださるので、安心してその様子を見届けることができます。また、センター職員の方からも、利用する子供達の様子をうかがうことができ、指導の参考にさせていただいています。



根本交流センター

その後、根本駅周辺のスーパーやコンビニを巡回していますが、店員さんに子供達の様子を聞くと「心配ありませんよ。」と答えてくださります。迷惑をかけることもあるかと思いますが、あたたかく見守っていただけています。

実際、18時頃はお母さんと一緒に買い物をする児童を数人見かけるだけで、子供だけで出歩いていたたり、未成年者が喫煙

や座り込みなど不審な動きをしていたりする様子はほとんど見られません。

夏祭りの特別巡回のような場合でも、会場周辺には見守り当番の方が多く立ってくださっていて、時間になると子供達は約束を守って帰宅しています。

こうした地域の安心できる状況は、根本地区の様々な活動に参加する多くの方達が、日頃から子供達を見守ってくださっているおかげで作られていると思います。

例えば、児童が登下校する時間帯には黄色いジャケットを着た見守りの方達の姿を、毎日たくさん見かけることができます。そして交流センターなどで、毎月のように子供達が参加できる地域のイベントが企画されています。

10班指導員の皆さんも、それぞれPTAや町内会の役員や世話役、民生児童委員など、様々な立場でこうした地域の活動に参加し、子供達に深く関わっておられます。そのため、巡回中には、その時々に見えてくる子供達の様子を話題にし、情報を交流することもできています。

ただ、根本駅周辺では夜間や早朝の不審者情報や心配な事案も報告されており、油断は禁物であると考えています。

今後も、黄色いベスト姿の指導員が、地域を巡回していることで、心配な事案の抑止になるようお願い、活動を続けていきたいと思っています。

# いつも気に掛けてるよ！

瑞浪地区F班稲津班長  
小木曾 文和

センター指導員としての4年目が、終わろうとしている。5千人の住む当町域は閑静で、小中学生350人をはじめとして青少年に関しては、とりたてて大きな問題等耳にすることなく推移しているが、報道されるような重大事案は、いつでもどこにでも起こりうるものと捉え声掛け活動にあたっている。私も青少年育成やまちづくり等のお手伝いをしているが、文化・スポーツ活動、イベント、見守り活動など子ども達に関わる活動に携わる町民の方も多く、子ども達もそうした活動に参加したり、あるいは中高生ボランティアがスタッフとして参画するなど、大人達と子ども達との距離感は、決して遠くはないのではないかと感じている。

子ども達に出会うと「お帰りー お疲れー」「車に気をつけてねー」「安全運転でねー」と青色回転灯車両から呼び掛ける。「いつも君達のことを気に掛けているよ！」とエールを贈るつもりで。呼び掛けにことばや笑みが返ると心地よいが、そうばかりとは限らず会話の糸口を開くのは、必ずしも容易いことではない。言葉や表情が、子ども達を強くし奮起させる場面は少なくないが、その言葉掛けが難しいことも幾度となく痛感している。しかし、温もりのある言葉や表情が安心を生み、この安心感を得て子ども達の意欲的な行動が、促されるものと思いたい。肉声だと声の情感があり、相手の表情や理解度が95%の確率で伝わるといふ。メールやインターネットも大切だが、一方的にしる声掛け活動は、ほんの僅かでもアナログな関係を結べる時間ではないだろうか。

特筆することもないが、町内の小中高校、コンビニやディスカウントストア、それに神社の境内などを軸に、臨機応変にその都度コースを決め、マンネリ化を避けるようにしている。中学生の夜間徘徊が事故に遭遇した事件を受け、夏場には、人気のない城山大橋の橋脚下などもコースに加えた。年に1～2回は、コンビニやディスカウントストアで責任者の方に巡回していることを伝え、懸念しておられることなどお尋ねしている。「以前は駐車場の一角にゴミが散乱していたが、今は良くなった」などと伺うと、私達としても留意していた場所だけに、ほっとする。ほかもできれば「水仙の笑顔弾ける通学路」のようであってほしい。

地元稲津中は、陶中と統合し、この4月から新中学校としてスタートすることになっている。それが間近に迫った子ども達の複雑な心境や、のんびりとした地域柄ゆえに身を守る大切さをどう気づかせるか、あるいは大人の目に映ってこない部分をどう捉えたらよいか等々を話題にしながら巡回している。



稲津中学校 (4月から瑞浪南中学校)

巡回の車内は、「顔の見える関係」を願いながら、子ども達の「いま」について、あれこれとめぐらすひとときでもある。

# 情報を大切にした「声かけ活動」

土岐地区 8 班 泉 班 長  
齋藤 真之

私たちの班は、仕事の関係もあって街頭指導を午後 6 時から行っています。そのため、子供達に会う機会があまりありませんが、できるだけ、指導員さん方の参加しやすいことを優先して、活動日時を決めています。

初めの頃は、ゲームセンターやおもちゃ屋、本屋、バローなど、人が居そうな所を巡回していましたが、それでも子供達に会えませんでした。そこで、次第に次のような工夫をするようになりました。

自分達の班には、小学校、中学校の先生方がみえます。その先生方の学校に寄せられた苦情又は噂話（たとえば、「公園で中学生がいじめをしていた。」）等の話を巡回コースに取り入れています。「公園で中学生がいじめをしていた。」という話のあったときは、班の指導員に一度その場所に行ってみようと呼びかけ、ゴミ袋を持ってゴミを拾いながら、その公園まで行きました。公園では、近隣のお宅に声を掛け、夜とかに子供達が居ないか尋ねたり、情報を集めたりしました。このように、私たちの班では、先生方などの情報をもとに巡回する場所を変更してきました。



スーパーの駐車場

夏休み明けに、生徒が補導された場所があると教えて頂き、何故そんな所にいたのか調べてみようということになり、行ってみました。実際に行ってみると、色々な事が見えてきたりしました。その場所は、大型のスーパーマーケットの駐車場、当然のように水銀灯の照明設備が設置されていて、防犯にも役立っているものと思われましたが、実は西側の駐車場の水銀灯は、夜間、点灯されていませんでした。その駐車場の横には、携帯電話屋

さんあり、W i F i の電波が 2 4 時間飛んでいて、若者の興味・関心を示す場所になっていました。W i F i 電波の届く西側の駐車場は、真っ暗な人の気配がない（若者がたむろするのに）都合の良い場所へと化していました。

又、若者の問題行動の情報のあった公園付近の場所にゴミ袋を持って、掃除をしながら出かけました。公園付近の巡回中に出会った若者に声かけをし、話をする事もできました。

最後になりましたが、私たち 8 班の街頭指導の最後は、必ず土岐市駅に向かい、中央トイレの点検や駐輪場でのカギの付いていない自転車は無いチェックしたりすることと、駅員さんに最近駅で変わったことは無いか尋ねたり、駅のコンビニの店員さんにも声をかけて情報を頂けるようにしています。

土岐地区 8 班は、情報を大切に「声かけ活動」をしています。



土岐市駅